北杵築小学校【学校通信】

ともに・・・ R7. 11. 26

自ら考え挑戦し　ともに高め合う　北杵築っ子の育成

「ほうじ茶を上手に作ることができた・・・」
～ほうじ茶手作り体験～

杵築市の特産品のひとつと言えば、杵築茶が挙げられます。この杵築茶は、北杵築地域で昔から栽培されており、斜面に植えられた茶畑の風景は、心癒されるものがあります。

４年生は、総合的な学習の時間に、この北杵築地域で栽培されるお茶についての学習を進めており、その一環で、校区でお茶農家を営みつつ、キッチンカーでドリンク販売も手掛けている手嶋さんをお招きし、子どもたちがお茶について学びを深めました。

まずは、手嶋さんが、ご自宅で栽培した茶葉を使って、お茶を淹れてくださいます。渡されたカップには、きれいな緑色をしたお茶が注がれています。子どもたちが、早速そのお茶を口にします。すると、「苦くない！」「味と香りがいつものと違う」との驚いた声をもらしています。私もいただきましたが、お茶のうまみが十分に引き出された甘さを感じる味わいで、大変すばらしいものでした。

お茶本来の味わいを実感した後、子どもたちは、手嶋さんが用意してくださったお茶についての３択クイズにチャレンジです。

クイズを通しながら、“お茶の木は、ツバキの仲間である”ことや“新茶の季節は３～５月である”こと、“中国がお茶の始まりで、昔は薬として使われていた”等お茶に関することを、さまざま学ぶことができました。

また、お茶の製法についてのお話もあり、“杵築では、生葉を蒸した後、揉んでのばして作る煎茶が主である”ということや、“煎茶の中の茎や大きな葉をさらに炒っていくとほうじ茶になり、ほうじ茶は、炒っている間にカフェインがとんでいき、体にやさしいお茶になる”ということも、教えてくださいました。

そのお話を踏まえ、後半では、子どもたちが“ほうじ茶手作り体験”にチャレンジです。「弱火で芯まであたためます」との手嶋さんの説明を受け、一人一人に配られた茎や大きな葉の煎茶を、各自フライパンに入れ、弱火で炒り始めます。へらで丁寧に煎茶を混ぜながら、均一に火を通していきます。弱火ですから、ほうじ茶ができあがるまで時間がかかるようですが、子どもたちは、根気強くへらを動かし続けています。

しばらくして、茶葉の緑色が茶色へと変わってきました。だんだんと、香りも立ってきました。「いいにおいがする」「匂いが出てきた。甘いような・・・」と、子どもたちは、茶葉の色と香りを通して、ほうじ茶の完成に近づきつつあることを感じているようです。そして、長時間かけて、世界に一つしかない自分だけのほうじ茶を作りあげることができました。仕上がったほうじ茶を見て、子どもたちは満足そうな表情です。

授業後には、子どもたちから、「ほうじ茶のことがよくわかりました」「アドバイスをしてもらい、ほうじ茶を上手に作ることができて楽しかったです」「お茶名人になりました」等の感想が出され、ほうじ茶手作り体験は、子どもたちの心に強く残ったようです。

この自分たちが作ったほうじ茶を、それぞれ大事におうちに持って帰りました。淹れ方も教わったので、ご家族に淹れてあげた子どもさんもいるのではないでしょうか。

まずは、お茶のおいしさに感動したことから始まったこの時間。このようなおいしい茶葉が、自分たちのふるさと北杵築で栽培されていることに、子どもたちはきっと驚いたことでしょう。この時間の学びを踏まえ、４年生は今後、お茶についての学習をさらに深めていくそうです。

実行性を高めるために
～第２回不審者対応避難訓練～

１０月２９日に実施した不審者対応避難訓練では、不審者侵入を管理職に伝える情報伝達方法と役割分担の見直しと、子どもを避難させるタイミングについての課題が浮き彫りとなったことは、先号の通信でもお伝えしました。

そこで、課題解消に向け、１１月１９日（水）、子どもたちの下校後に、職員のみで２回目となる不審者対応避難訓練を行いました。

今回は、不審者役を職員が行い、子どもが不在ということもあり、不審者が武器を持っているという想定を加えました。

前回の訓練での課題を受け、計画の見直しを図ったため、課題であった侵入を管理職に伝える情報伝達方法と役割分担、また子どもを避難させるタイミングについては、解消することができたと感じています。

一方、不審者が武器を持っていることで、不審者対応役の職員は、前回よりも対応が難しかったと話し、不審者との距離の取り方を学ぶものとなりました。

子どもの大事な命を預かるため、実際にやってみることで課題を焦点化していかなければなりません。課題をひとつずつクリアして、今後もより安全が担保される実行性のある訓練になるよう、職員一同努めてまいります。